夢追い人

日々努力・日々挑戦・日々前進

角建具製作所 代表 角 明成 さん

今月の夢追い人は、角建具製作所の角明成さんにお話を伺いました。

角建具製作所は昭和41年創業。これまで約54年建具製造をされています。

現在は、従業員、パートの方、あとは家族従業員で製造を行っています。

2名の従業員は、建築の勉強も兼ねて、角建具製作所に勤務されているそうです。

「建具と建築は関わり深い業種です。私自身も建築のことを学びながら建具をつくっています」

角建具製作所には、どんなお客様から依頼があるのでしょうか。

製作所の外観

「工務店や大工さんからの依頼での建具製造がメインですが、施主様からの依頼も時々受けています。その場合は、家の設計図や完成図等、家の全体的な雰囲気を見て、施主様に喜んで頂けるようにより良い提案を行っています。建具職人として、こだわりを持って仕事に取り組んでいます」

そもそも角さんが建具製作に携わろうと思ったのは、どのようなきっかけがあったからなのでしょうか。

「一番は親がやっていたからという理由が大きいですね。

元々、継ごうとは思っていませんでしたが、周りや知り合いから言われることが多く、自然に跡を継がないといけないのかなという気持ちになっていました。大学卒業後は、修行のためによその建具店へ就職したかったのですが、実家でも弟子をとっていたこともあり、父の元へ弟子入りをしました」

弟子の期間などは設けられているのでしょうか。

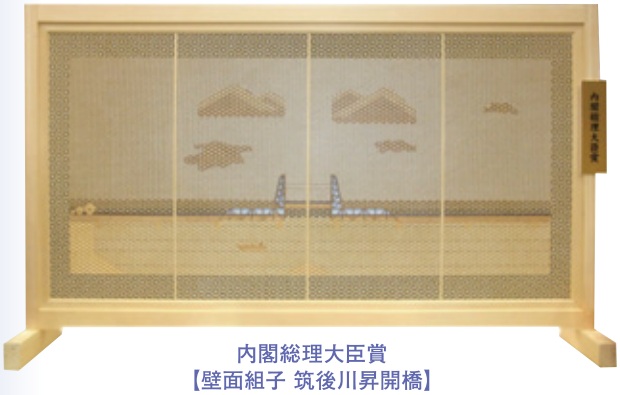
「弟子の修行期間は4年が基本ですね。その間に基礎から一通りのことを学びます。もちろん機械を使った作業を行ったりもします。その時の受注の状況で異なりますが、皆さんが想像しているような、1～2年は掃除ばかりとか機械を触らせてもらえないなんてことはありません。昔は、そのような時代もあったかもしれませんが、いまは未来の職人のためになるような期待感を持った進め方をしています」

修行していくなかで、苦労などについてもお尋ねしました。

「苦労というよりは、毎日毎日勉強だらけでしたね。道具・工具の扱い方等も含めて、すべてに学びがありました。

木は呼吸をしていますので、周りの環境や季節、木の乾燥具合や気候の変化に左右されやすいので、材料や材種のそれぞれの特徴に気を使って製

作しています。
建具には合板を貼ったフラッシュと、木材を使用し、組みあげていく無垢物があります。1、2年目はフラッシュの製作から始まり、木の特徴を学びながら少しずつ無垢物と呼ばれる建具製作に進んでいきます。
なによりの基本は、材料である木を見極めることですからね。その大事なことを製作の度に学んでいます」
取り付けのために現場に入るとまた建具の見方が違ってくると話された角さん。
「現場は、建築の勉強も必要で、作りや工法によって、納め方も変わってきます。
いまは家の建ち方も違い、建具も一体になった作りが増えてきました。調整も金物で出来るようになってきていますね。
それから大工さんも変わってきたなと感じます。
昔は、建具の取り付けをしていて、取り付けるために敷居等にも調整をしていると何をしているのかと怒られた事もありました。
お客様と直接打合せする時も既製品のカタログがあり、そこから決めていただく方法が簡単なのですが、家の雰囲気や作りに合わせて、提案できるように努力しています。
自分たちができることとお客様が求められているものを精査しながら、お客様が気に入ってくださったものを、製作していくのが一番ですね。
どうしても、一般のお客様は建具に対する認識が薄く、建具にも様々な種類があるということを知られてないのが現状です。とても残念です。


内閣総理大臣賞
【壁面組子 筑後川昇開橋】

全国建具組合連合会会長賞
【壁面組子「逆さ赤富士」】

常に建具の地位の向上が出来たらと、強く思います。
建具職人がたくさんいる大川という集積地から、大川の建具は組子も含め、技術が高いんだなということを皆さんに広く知っていただきたいですね」
建具にも得手不得手はあるのかとお聞きしたところ、「実は、」とお話しされた角さん。
「うちは、初めて製作するものや変わったものをつくることが多いんです。
宮大工さんからの依頼で、大きい神社仏閣の仕事も手掛けたこともあります。例えば、『博多千年門の門扉』もうちが手掛けさせて頂きました。
神社仏閣の仕事は、一般の建具と違い、修復工事などは、歴史や文化に合わせて同じ作りにしないといけないところが難しいです。こういった違いも知っておかないといけないので、まだまだ勉強が必要です。特に『博多千年門』を手掛けたときは、機械が使えない箇所が多く、ほとんど手作業でした。さらに、大きいので、木の伸縮が激しく、一日一日の変化に注意が必要でした。製作はこれに掛かりっきりで、約3ヶ月ほどかかりました。一人で出来ないことが多かったので角建具製作所総出で製作にあたりましたね」
角建具製作所は全国伝統建具技術保存会に属されており、研修等で、一般の方が入ることができない貴重な場所や物を見せてもらうこともあるそうです。その際、文化財の製法や修復の仕方などの、勉強を欠かさないようにしているとのことでした。
二代目となる角さん。先代であるお父様から学ばれた事などもお話していただきました。
「父もまだまだ現役で、現場にも入ってもらっています。親、師匠との関係でやりづらかった部分もあり、指導は兄弟子から学んだことも多いです。
基本的なこと、道具を大事にすることに人一倍うるさかったですね。使ったものをそのままにすると大概怒られていました。
父は、いろんな建築物を見てきて勉強してきたこともあってか、材料の見方がうちでは一番長けていると思います。まだ父には及びませんが、いつか肩を並べられるよう心がけて、勉強しています」
いろんなやり方を知っているからこそ、普段使わない方法を変化させ、お客様の様々な要望に応えることができるとも話された角さん。
「機械も良くなって、いろんな要望に応えられるようになってきていますが、どうしても機械ではできない加工が出てきます。そのような時こそ、高い技術や見識が必要となってきますので、努力を続けていきたいですね」
大川で建具職人をしているなかでのメリットをお伺いしました。
「資材や材料が近くに揃っていて、手に入りやすいことと大川には同業者がたくさんいるので、横の繋がりも強く、協力してもらえることが大きなメリットです」
建具職人として、経営者として、日々研鑽されている角さん。そんな角さんの夢は何でしょう。
「材料の高騰や価格競争等の中で、現状を維持しながら従業員や家族を守っていきたいです。そして、こちらからお客様に提案をしていかないといけないですね。大川の高い技術が活かせるような提案ができるように努力していきたいです。
もちろん新しいことにも積極的に挑戦していきたいと思っています。
例えば、大川建具事業㈱で取り組んでいる大川ＴＡＴＥＧＵＭＩプロジェクトには、とても刺激をもらっています。若手の建築家やデザイナー、若手の建具職人とコラボし、作品の製作にも取り組んでいます。作る側の考えとデザインする側の考えを理解し、今後のビジネスにも役立てたいですね。
また、伝統的な神社や仏閣の製作や革新的な取組にも積極的に挑戦し、両立できるよう日々勉強を続けていきたいですね」